

§ 日本AKA医学会理学・作業療法士会 ホームページのお知らせ  
<http://akaptot.com/>

§ 『重要なお知らせ』

本会におきましては、新型コロナウイルス感染拡大・予防の観点から 2020 年度は会則第 4 条事業 1) ～ 4) のうち 1) 研究発表会、研修及び講習会の開催について、いずれも中止・延期とすることになりました。延期の具体的な内容については情報収集・協議の上決定して参ります。当会は学術団体であり、その主な事業となる学術集会や研修会を開催できないということは誠に遺憾であります。今年度におきましても引き続き技術研修コースや学術集会の参加をお考え、心待ちにされていた皆様のご期待に応えることができず大変心苦しいですが、何卒状況ご理解の程宜しくお願い申し上げます。

§ 第 21 回学術集会（山梨）開催のお知らせ

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、延期となっておりました第 21 回学術集会ですが、2021 年 11 月 28 日（日）に開催することが決定いたしました。なお、会場、開催方法などにつきましては、新型コロナウイルス感染拡大の影響を見ながら、検討しております。参加申込・演題申込につきましても、決定次第ニュースや、ホームページにてお知らせいたします。多くの皆様のご参加をお待ちしておりますので、随時チェックしていただけますようお願い申し上げます。

● 学術集会開催要項

テーマ：「次世代への継承」

開催日時：2021 年 11 月 28 日（日）10：00～16：30（予定）

※会場・開催方法などについては現在検討中

§ 令和 2 年度資格更新についてのお知らせ（認定委員会）

ニュース 59 号（2020. 5 月）でお知らせしましたように当会では新型コロナウイルス感染予防から令和 2 年度の事業を「中止」としたため資格者の更新期間を自動的に 1 年間延長する処置を実施いたしました\*1)。そのため令和 2 年度につきましては資格更新手続きは発生せず、更新書類は同封しておりません。

令和 3 年度分更新につきましては改めてお知らせいたします。

\* 1) ただし下記 1～3 により令和元年度以前に令和 2 年度を資格休止として申請している場合を除く。

## 更新期間附則（抜粋）

次の場合は所定の手続きにより更新期間を延長することができる。

1. 傷病等により会の活動へ参加が困難な場合
2. 女子の妊娠、出産については係る期間
3. 風水震火災、その他理事会が認めた事由で会の活動が困難な場合

上記で期間延長を希望する場合は延長事由を記載した書類を添え認定委員会へ申し出ること。

更新に関してのお問い合わせ先（必ず会員番号、氏名をご記入ください）

Eメール: aka-fukuoka@onyx.dti.ne.jp

## § リレーコラム（第20回）

### モチベーション

可也病院 坂本周介

**Motivation** 動機付け：心理学において、個人の動機や動因すべての総称。その時々にある個人に働き、意思に影響を与え行動を生じさせる。（ステッドマン医学大辞典より）

今年は春先から新型コロナウイルスの影響により生活が大きく変わった年であった。

日本理学療法士協会をはじめ各団体で年度当初から研修会の中止や延期が相次ぎ、当会でもリスクを考慮して今年度中の事業は中止となった。

こうした状況の中、私自身も受講や指導の立場でAKA-博田法の研修会にこれほど長期間参加していないのはおよそ30年ぶりになる。もちろんこのような状況は望まれるものではない、しかし同時に一つのことをこれほど続けてきたことに改めて気づき、自らを振り返るきっかけになったことも確かである。

すべての会員にAKA-博田法を始める出会いがあるように思う、それは患者が治るのを目にした、自分自身が治療をしてもらったり、あるいは学校や実習で最初に技術に触れた人もいるかもしれない。そのうえで修得に向けて続けていく人、残念ではあるが半ばでやめていく人などさまざまである。一事を続けていくためのモチベーションはそうした出会いから得るものが重要であるように思える。

私のAKA-博田法との出会いは20代半ばであった。

平成元年3月、四年間勤務した国立療養所を退職した。とりたてて不満があったわけではなく職場としては恵まれた環境であった。若気の至りで、自分のやりたいことを行うには小規模の病院のほうが良いのではないかとさしたる根拠もなしに転職を決めた。

思えば短絡的ではあったがその決断がなければこうしてコラムを書いていることもなかったであろう。

新しい病院に入職しまもなく、まだAKA-博田法（当時はAKA）という名前も知らなかった頃、ある高齢の女性が外来治療に訪れた。その方は膝の痛みで診断はOAであったように記憶している、T杖をつき疼痛性の跛行があり何とか歩いて来院されていた。当時の私からすれば可動域、筋力、足底板や歩行補助具、日常生活指導、物理療法など定型的な治療しか頭の中に無かったし、それ以上に治療があるとも思っていなかった。

当時の上司は私より経験年数が2年ほど上だったが、国立大阪南病院まで福岡から年1回研修に行き、開発中であったAKAも治療技術として勉強していた。

その上司が評価を行い、何か腰部を扱っていたのは覚えている。多くの方は予備知識なく臨床でAKAと初めて出会ったとき、何をしているのだろうと感ずるのではないかと思う、正直なところわたしもその時は意味も分からず見ているだけであった。

治療が終わり女性が歩き始めた時、衝撃も受けたがなぜ普通に歩くことができるのだろうという思いが強かった。その後、帰るときに女性が杖を忘れて出口まで歩いていき助手の人が慌てて持っていく様子を見た時は完全に自分の理解の範疇を超えていた。

作家アーサー・C・クラークの言葉に「十分に進んだ科学技術は魔法と区別がつかない」という一文がある。「科学技術」ではなく「医療技術」であるがその時の私は未開の地から来て最先端の理学療法を魔法のように感じていたのである。

当時の自分を無理やりほめるとすれば目の前で起こったことを同じ理学療法士が行った事実として受け入れたことくらいである。

AKA-博田法を知るにつれ修得したいという思いとともに今までの自分よりも何かができるのではないかという理学療法士としての「可能性」が見えたような気がした。

こうした「可能性」を信じるのが今のモチベーションにつながっているように感じている。

その後、博田節夫先生の診断や治療を定期的に見学する機会を得られ、理学療法士とは何をすべき職種であるかを学ぶことができたのは私にとって身に余る幸運であった。

コラムで諸先生が書かれている通り、技術のみならず正しく治療していくための理学療法士としての姿勢を教えていただいた。

診療や学術活動の制約の中で過ごすこの時期だからこそAKA-博田法に出会った気持ちを忘れずにいられればと思う。そして、昨日治せなかった患者を明日の自分は治せるようになるかもしれない、そのことを原動力に今日の治療に携わっていきたいと考えている。

## § 都道府県別会員数 1021名 (令和2年11月24日現在)

|     |     |     |     |     |    |     |    |    |     |    |    |
|-----|-----|-----|-----|-----|----|-----|----|----|-----|----|----|
| 北海道 | 7   | 青森  | 1   | 秋田  | 6  | 岩手  | 4  | 宮城 | 5   | 山形 | 17 |
| 福島  | 7   | 茨城  | 5   | 栃木  | 33 | 群馬  | 10 | 埼玉 | 31  | 千葉 | 47 |
| 東京  | 53  | 神奈川 | 104 | 新潟  | 1  | 富山  | 2  | 石川 | 1   | 福井 | 2  |
| 山梨  | 141 | 長野  | 6   | 静岡  | 21 | 岐阜  | 7  | 愛知 | 27  | 三重 | 1  |
| 京都  | 20  | 滋賀  | 9   | 奈良  | 14 | 和歌山 | 11 | 大阪 | 108 | 兵庫 | 28 |
| 岡山  | 10  | 広島  | 15  | 島根  | 5  | 鳥取  | 11 | 山口 | 47  | 徳島 | 25 |
| 高知  | 14  | 香川  | 20  | 愛媛  | 11 | 福岡  | 55 | 長崎 | 32  | 熊本 | 13 |
| 大分  | 13  | 宮崎  | 2   | 鹿児島 | 9  | 沖縄  | 10 |    |     |    |    |

## § 日本 AKA 医学会理学・作業療法士会

事務局 E-mail : aka-pt@dream.ocn.ne.jp (お問合せは E-Mail でお願い致します)

(編集後記)

今年も残り少なくなって参りました。今年は有史以来人類がほぼ経験したことのないような、予想だにできなかった1年になりました。編集段階(R2.11月末日)では、第三波のphaseに入り、感染者数は最多記録の更新が続いています。近年は自然災害も多く、災害続きとなっています。天災なのか…はたまた人災なのか…。ワクチン開発は急速に進んでいるようですので、来年には少し状況が変化して一日でも早く当会事業が再開できるようになればいいなと切に<sup>2</sup>願っています。本来は今年11月に開催するはずであった、来年11月予定の山梨学会は2年以上前から準備が始まっています。なんとか来年開催できて、準備委員皆様のご苦労が報われる形になりますように。

今回のリレーコラムは当会発足時から中心的に活動されている九州沖縄ブロック理事の坂本周介先生に執筆頂きました。イギリスのSF作家アーサーC クラークの名言『十分に進んだ科学技術は魔法と区別がつかない』…。まさにAKA-博田法、博田節夫先生にぴったりの格言です。患者さんがよくAKA後に「魔法みたい！！！」と仰いますが、学術的にも・理論的にも実に科学的です。基礎学・臨床学に裏打ちされた診断的・治療的体系です。広辞苑第六版には「科学」「理論」についてそれぞれ、「観察や実験など経験的手続きによって実証された法則的・体系的知識」、「科学において個々の事実や認識を統一的に説明し、予測することのできる普遍性を持つ体系的知識」とあります。まさにです。理由は教科書「AKA-博田法第二版(医歯薬出版)」、「仙腸関節機能障害(南江堂)」、当会会誌内「AKA-博田法の基礎」および「特別講演」の項を改めてお読み頂ければと思います。コラムを拝読し、確かにこんな時期だからこそAKA-博田法に出会った時の気持ちを振り返ってそれを原動力にしたいと想いました。

今年度は当会事業が滞っていますので、資格更新手続きが延長、来年度の会費納入および更新手続きが免除となっております。詳細はニュース本文ならびに別紙をご確認下さい。今後の状況に合わせて、会事業など報告事項がありました折にはホームページおよび次号ニュースに掲載して参りますので時折チェックの程宜しくお願い致します。

それでは少し早いですが、来年は皆様にとりまして少しでも良い年となりますように。そして、一日でも早く全国津々浦々の素敵な仲間に出会える日が来ますように。

